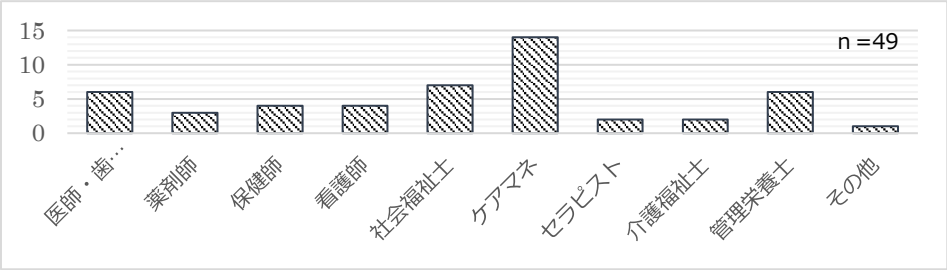
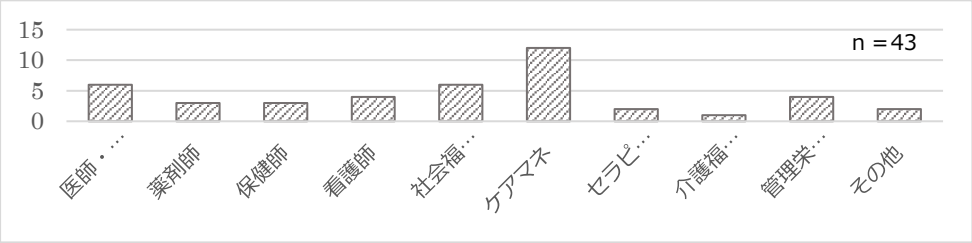
多職種研修会まとめ

テーマ：医療・介護連携を効率化する７つの情報共有ツール
実施日：R1 年７月 29 日　19：00～21：00
場　所：益田地域医療センター医師会病院　第一会議室
参加者：49 名



《アンケート集計結果》回収率：87.8%（43 名）

（１）職種



（2）研修内容

（３）研修を通じての学び

1.情報のデジタル化に時間がかかる
2.すべてのツールについてぼんやりとしか知らなかったので、有意義でした。正直無駄だと思えるものもあって、もっと効率よくできるのでは？と思ったりした。
3 .情報連携ツールが沢山あり、活用法も様々。できれば統一したほうが、患者、利用者、関わる人々の負担が減るかも？
4.様々なガイドがあることをあらためて気づかされた。一方でガイドがあり過ぎるのもなあとも思った。（2 人）
5 .介護施設間の情報共有が簡単に行えるツールとして、ネットトワーク網ができればよいが、現在ではまだ無理。パソコン、ＦＡＸまでかと思われる。今の冊子ツールを使いそれぞれが何なのか皆が理解するまで広がれば有効である。
6 .ケアプランの作成のための情報提供のタイミングを教えていただいた。
7.電子ツールは便利ですが、できるだけ顔の見える関係が必要と思う。（２人）
8 .居宅で情報書見せていただこうと思った
9.いつ、だれが、何のために必要なのかを考えた情報共有が必要だということを学んだ。（3 人）
10.まめネット、まずは知ってもらう機会が必要だと思た。患者様にとって一番有効な方法で関係者がつながる方法を選択し、つながることが大切と思った。
11.持ってないツール、結構あったようなので、ない人に渡せるといいと思った。
12.グループワークを通して、ＣＭや病院の方等多職種の意見を聞くことができてよかった。（９人）

13.せっかく色々なツールがあるので適時更新したり活用がもっとできるといいと思った。重複した部分もあるのでそこの情報提供をどうするかの検討も必要と思った。（５人）
14.様々なツールがあるが知らないツールもあり勉強になった。少しづつでも使っていきたい。（２人）
15.ちえぶくろ、多職種のためのちえぶくろを活用していきたい。
16.栄養士会のツールが広がるといい。ちえぶくろ（両）とも具体的でとてもいい。
17.栄養情報提供書があると相談・支援について、在宅生活において役立つ。
18.さまざまなツールがあるが、うまく活用できていないと思う。改善、変更していく人は誰でしょう？
19.資料として冊子の配布は不要だったと思うが、何かしらの資料があると便利だった。
20.ここ数年で福祉職員と医師との垣根がとても低くなったと思う。とても成果が出ていると感動している。
21.言いたいことが言える研修だった。

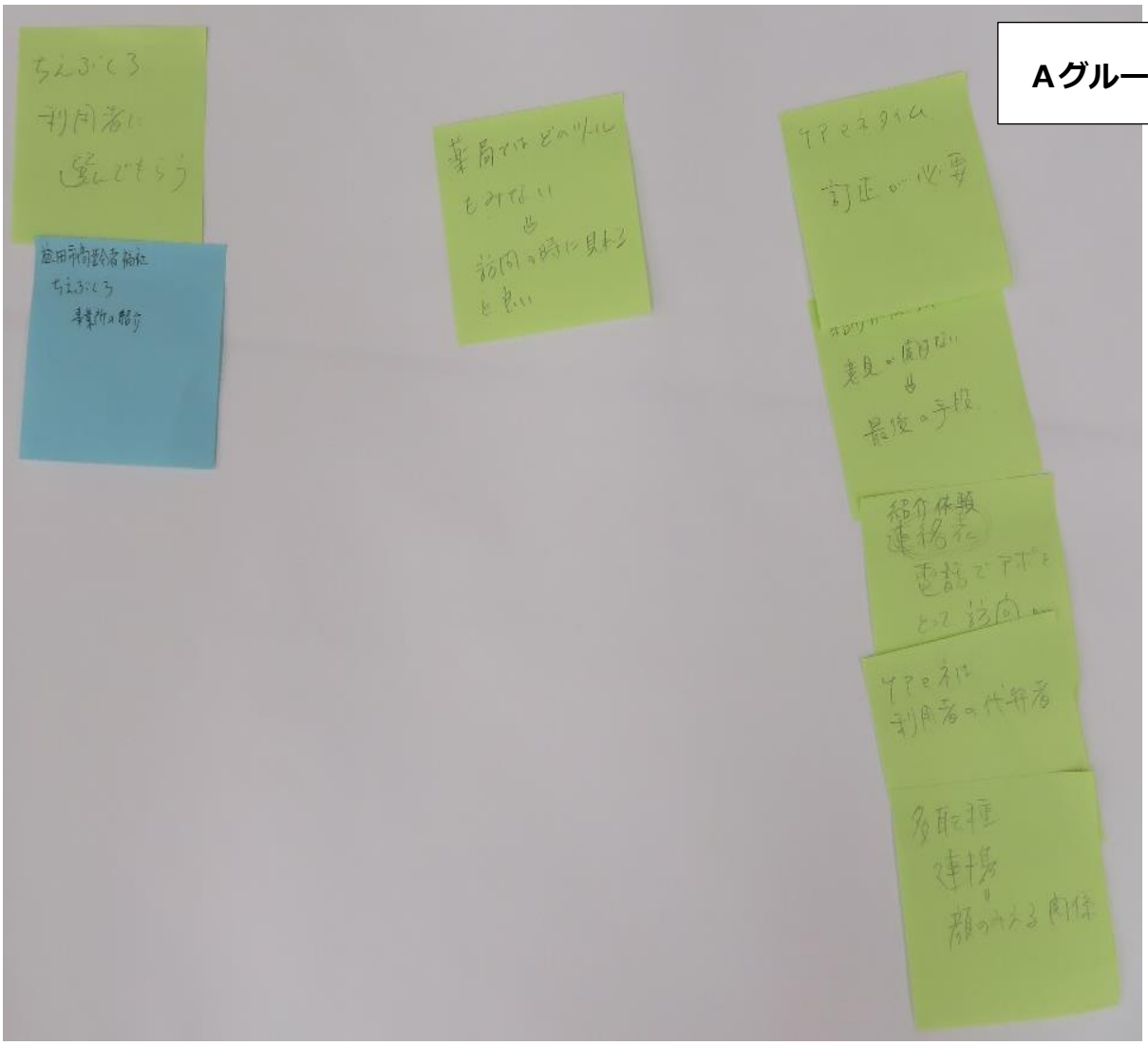
（４）医療と介護についての学び・感想

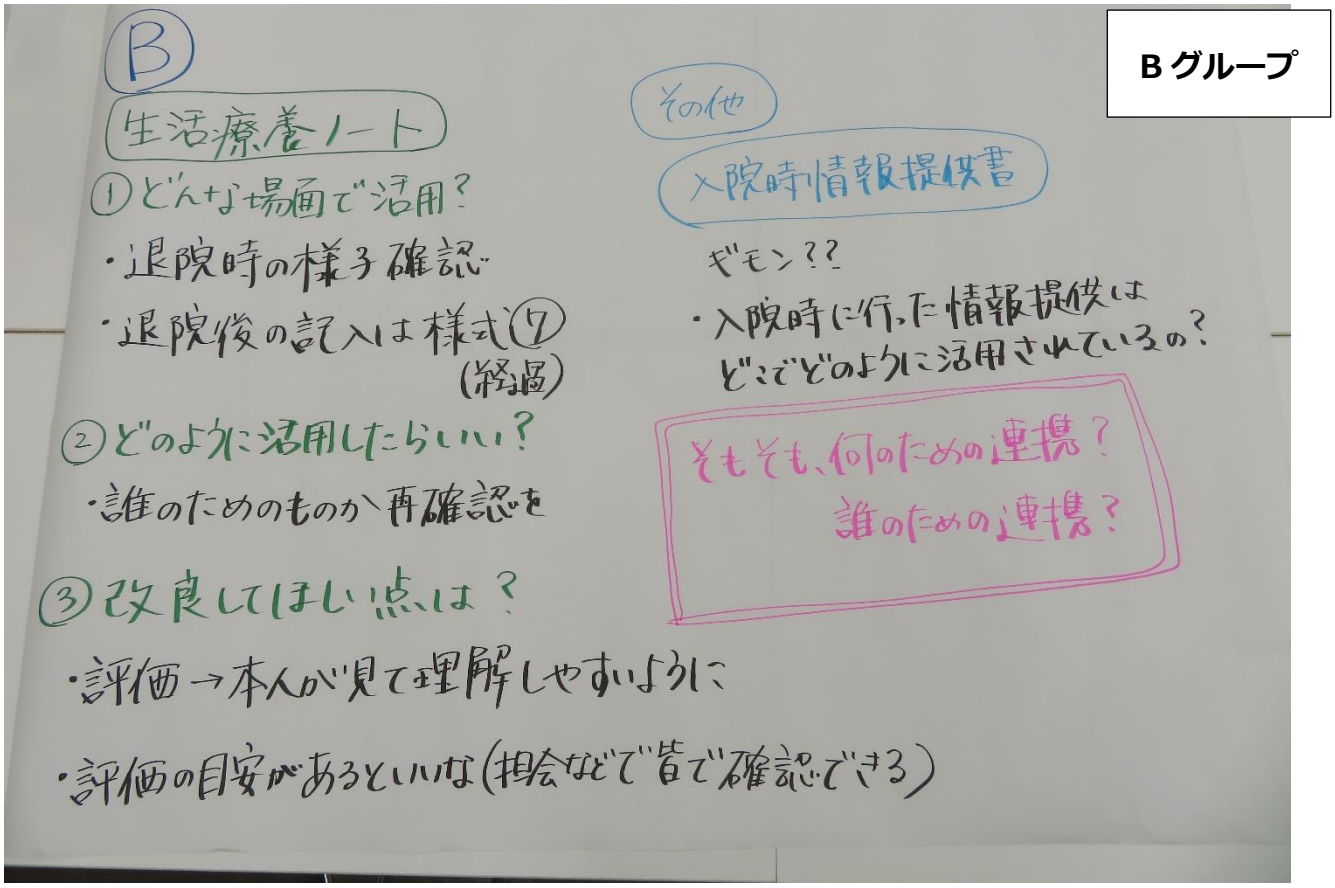
1　医師が垣根を低くしようと思っても、なかなか関係性ができない。
2　切れ目のない連携→何が必要か、目的等を改めて考えたいと思った。
3　ＭＣＳ、まめネットなどのつながるツールを早くみんなで活用できてスピーディに情報が伝わると良い。
4　ガイドができてもそれを活用するのは「人」なので、人と人のつながりを良好なものにしなければいけませんね
5　連携の概念が基礎資格や機関ごとに違う気がする。
6　レジュメがあると嬉しい。
7　全事業所がつながっているツールが一つでもできればよい。
8　デジタルでのやり取りでＯＫな場面とアナログを大切にしなくてはいけない場面もある。入院・退院時の情報提供書の参考様式は非常に使いにくい
9　主治医照会依頼について、先生よりベストな方法をお聞きした。今後の参考にできる。
10 こういった研修に参加してくださる先生に偏りがあり、話しづらかったり相談しにくい先生がおられる。もっと先生の参加をして話しやすい関係性が作れると良い。
11 今後、これらのツールをどう活かしていくか話し合えると良い。
12 連携が大切と皆わかっているが、各職種の仕事をするだけでも大変で、なかなか実際につながってない部分があり、良いツールはたくさんあるので、今後活用してつながっていければと思った。
13 多職種の皆さんと意見交換できて良かった。
14 タイムリーな情報活用ができ、退院の連携がうまくできるようにしていきたい。

（５）本日の研修会のご意見や、今後のテーマについて

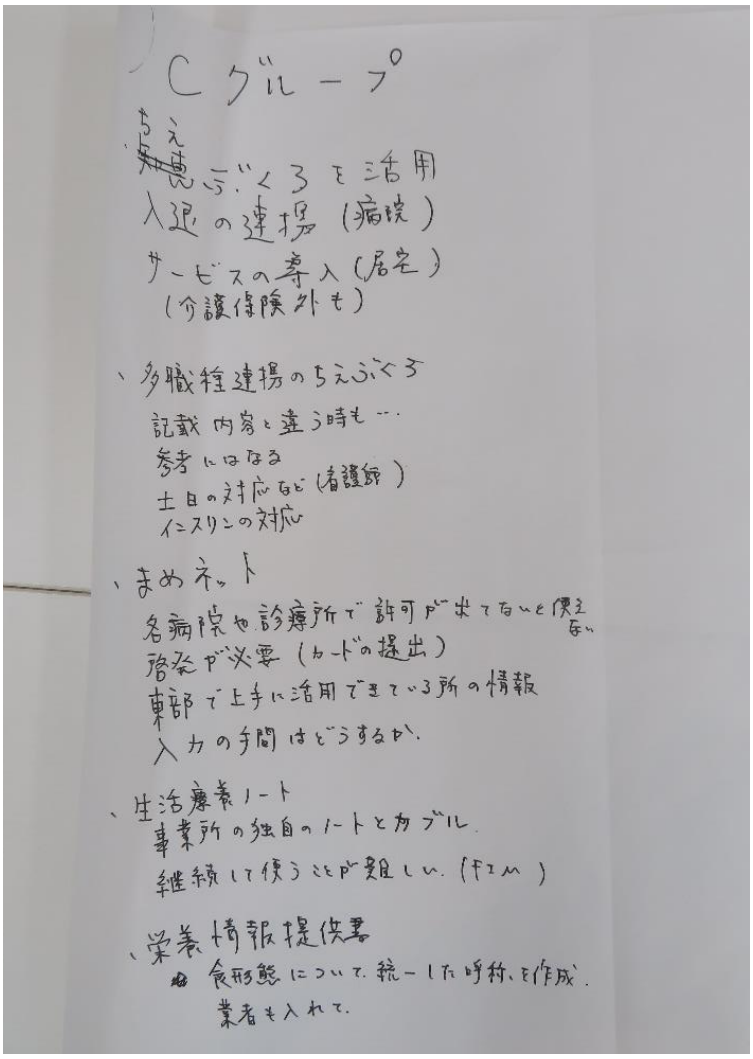
1　言いっぱなしで終わらない会にしてほしい
2　多くの職種の方と意見交換できてとても有意義だった。
3　継続的に行うことが大切なので、頻回に研修会を行って、情報交換できると良い。
4　研修を通して益田地域は連携の取りやすい、取れている地域なのではないかと感じた。
5　グループワークが楽しかった（多職種で）
6　研修会に参加する方は良い関係を作ろうとしているが、不参加の方はどう考えているのか？参加する意識、連携をしようとする意識があるのか？
7　食支援について
8　入退院連携シートの見直し、益田版の作成
9　各職種で何をやっているのか細かく知りたい。

■グループワーク　　「各ツールの賢い活用方法をみんなで見つけよう！」





Cグループ



Cグループ

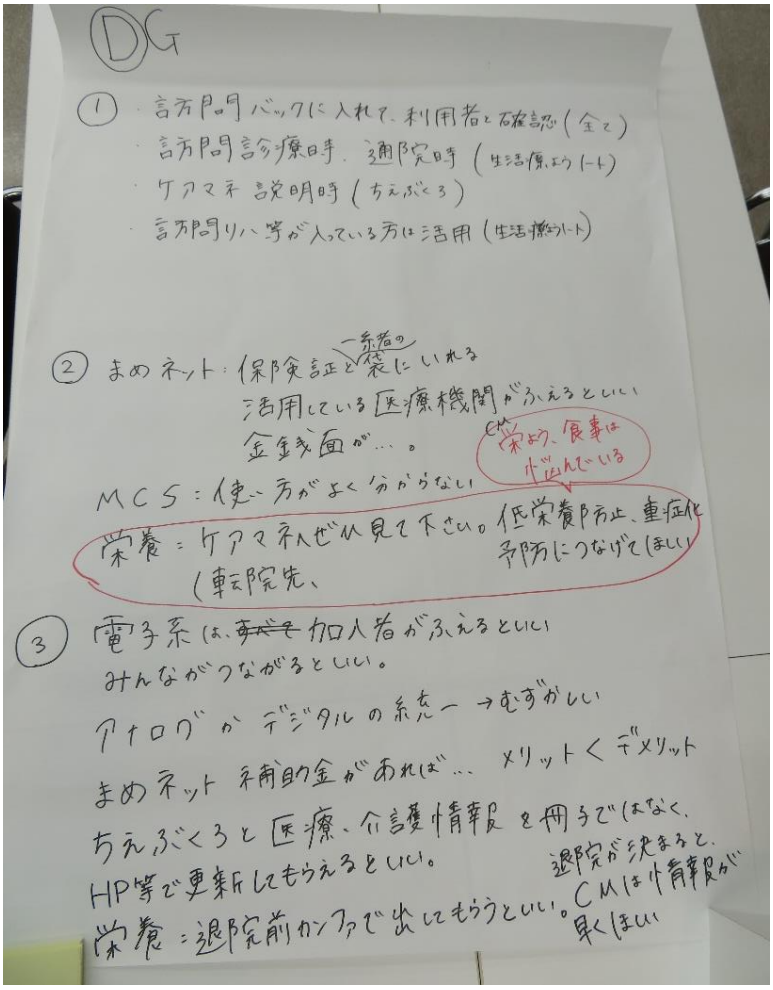
ちえ
~~知恵~~ぶくろを活用
入退の連携（病院）
サービスの導入（居宅）
（介護保険外も）

、多職種連携のちえぶくろ
記載内容と違う時も…
参考にはなる
土日の対応など（看護師）
インスリンの対応

、まめネット
各病院や診療所で許可が出てないと使えない
啓発が必要（カードの提出）
東部で上手に活用できている所の情報
入力の手間はどうするか。

、生活療養ノート
事業所の独自のノートとカブル
継続して使うことが難しい。（チェム）

、栄養情報提供書
食形態について、統一した呼称を作成。
業者も入れて。



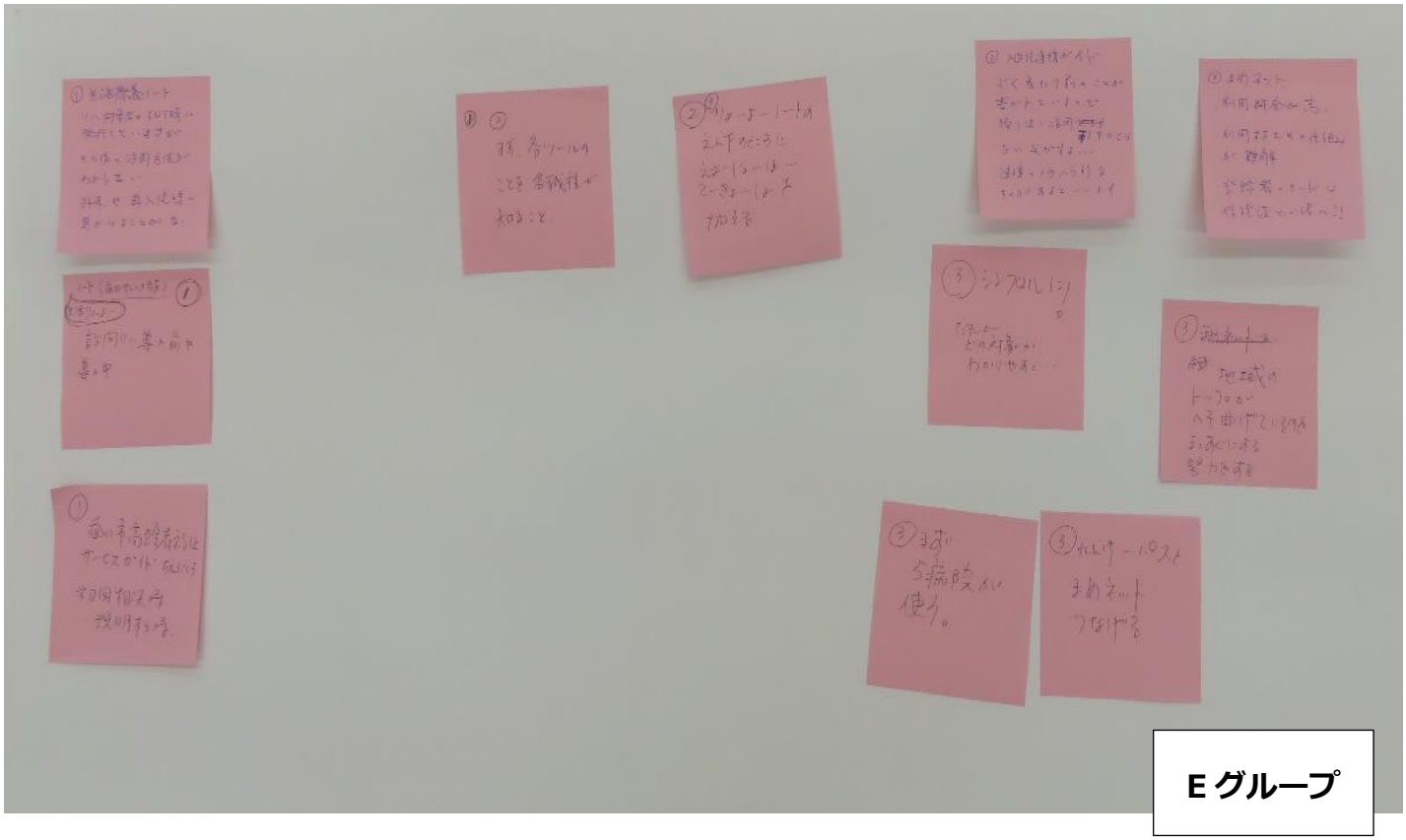
Dグループ

DG

① 言方問バックに入れて、利用者と確認（全て）
言方問診療時、通院時（生活療ようノート）
ケアマネ説明時（ちえぶくろ）
言方問リハ等が入っている方は活用（生活療ようノート）

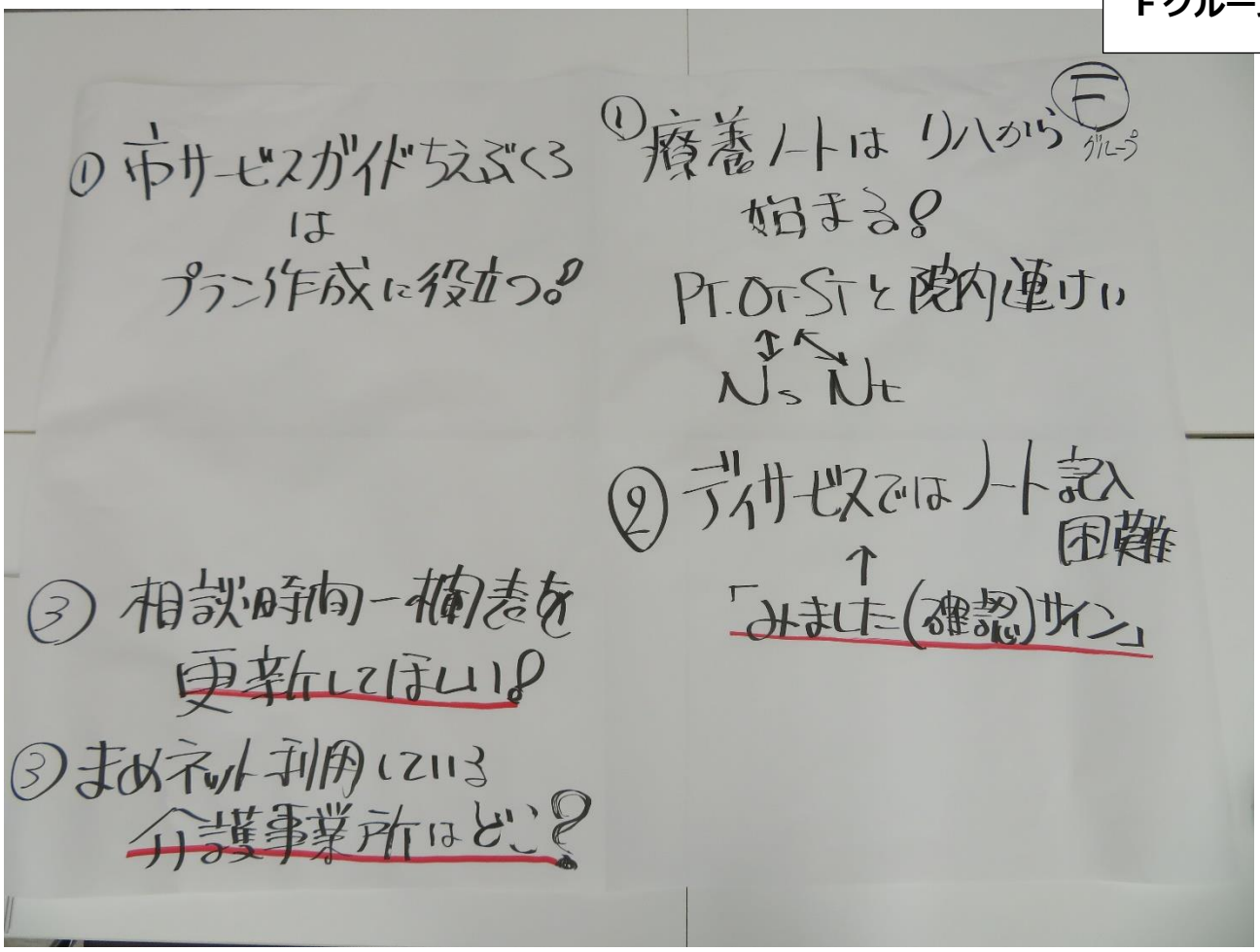
② まめネット：保険証と一緒の袋にいれる
活用している医療機関がふえるといい
金銭面が…。
CM 栄よう、食事は悩んでいる
MCS：使い方がよく分からない
栄養：ケアマネへぜひ見て下さい。低栄養防止、重症化予防につなげてほしい
（転院先、

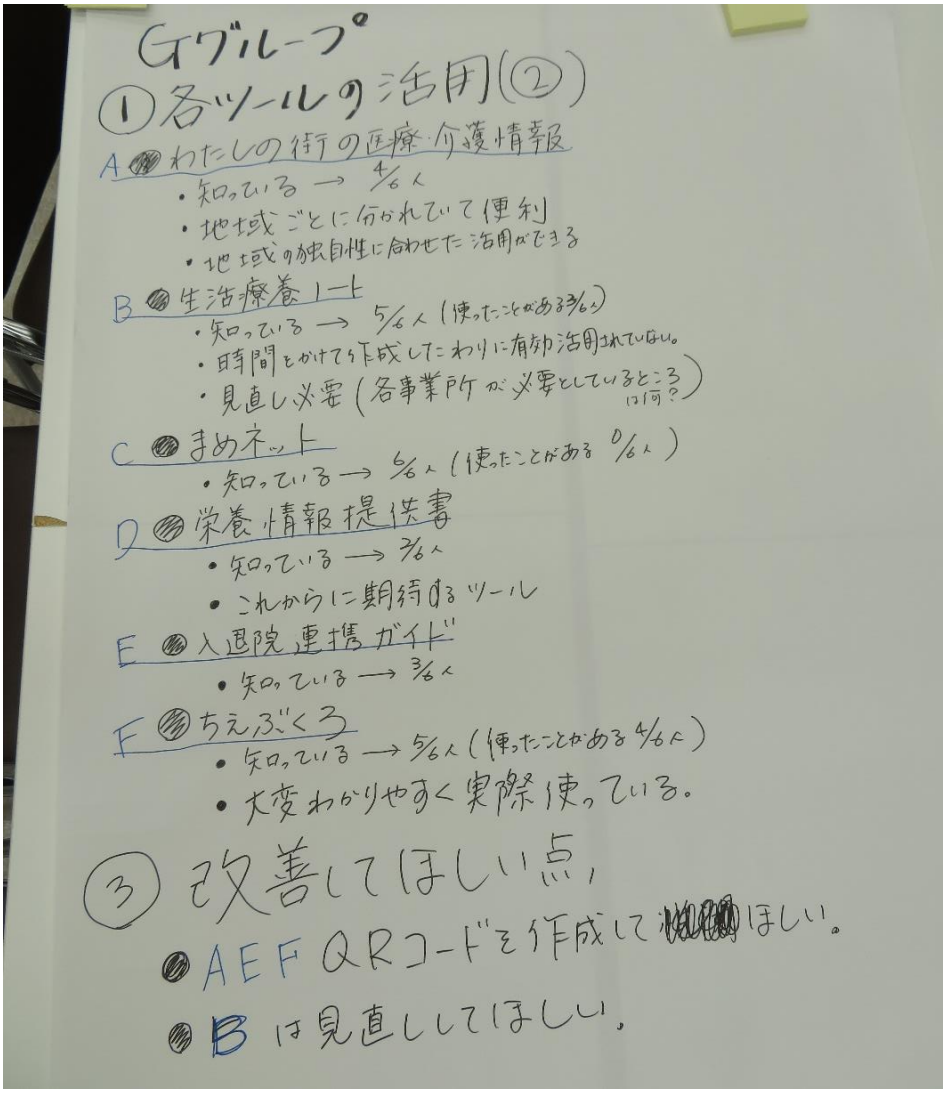
③ 電子系は、~~すべて~~加入者がふえるといい
みんながつながるといい。
アナログかデジタルの統一→むずかしい
まめネット補助金があれば…メリット＜デメリット
ちえぶくろと医療、介護情報を冊子ではなく、
HP等で更新してもらえるといい。
栄養：退院前カンファで出してもらうといい。
退院が決まると、CMは情報が早くほしい



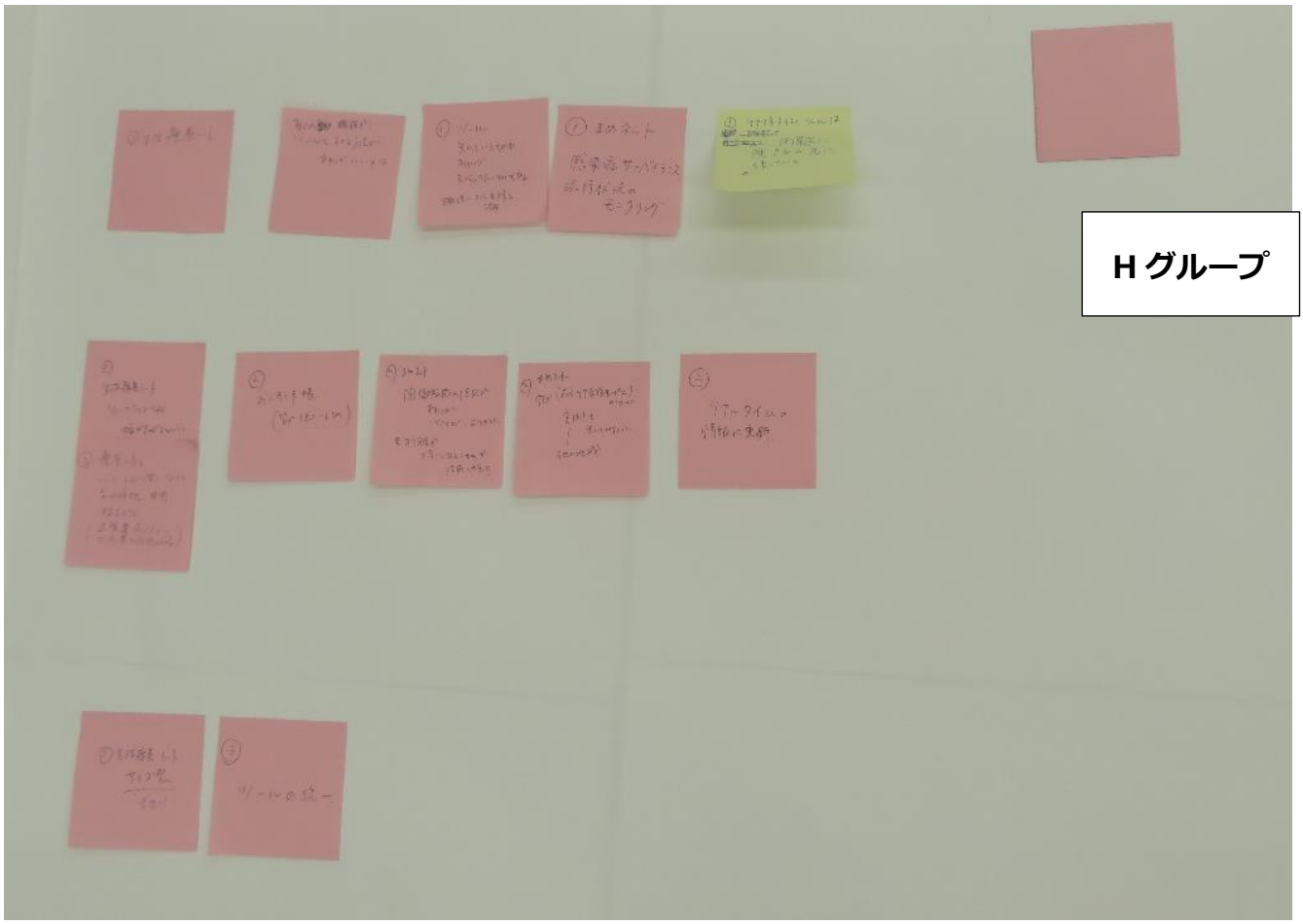
E グループ

F グループ


① 市サービスガイドちえぶくろ
は
プラン作成に役立つ!
① 療養ノートは リハから
始まる!
Pt.Ot.St と院内連けい
Ns Nt
② デイサービスでは ノート記入
困難
「みました(確認)サイン」
③ 相談時間一欄表を
更新してほしい!
③ まめネット利用している
介護事業所はどこ?


Gグループ
①各ツールの活用(②)
A わたしの街の医療・介護情報
・知っている → 4/6人
・地域ごとに分かれていて便利
・地域の独自性に合わせた活用ができる
B 生活療養ノート
・知っている → 5/6人 (使ったことがある3/6人)
・時間をかけて作成したわりに有効活用されていない。
・見直し必要 (各事業所が必要としているところは何?)
C まめネット
・知っている → 6/6人 (使ったことがある 0/6人)
D 栄養情報提供書
・知っている → 2/6人
・これからに期待するツール
E 入退院連携ガイド
・知っている → 3/6人
F ちえぶくろ
・知っている → 5/6人 (使ったことがある 4/6人)
・大変わかりやすく実際使っている。
③ 改善してほしい点,
AEF QRコードを作成して ほしい。
Bは見直ししてほしい。

Gグループ


まめネット
ツールの統一

Hグループ